

事務事業名	有害鳥獣被害防止用施設設置支援事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6037											
			所属課室	農林振興課		課長名	野田栄志											
	☐ 実施計画事業		所属担当	農業振興担当		担当者名	折居慎也											
基本政策	基本計画体系	Ⅱ にぎわいと活力あふれる都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目								
政策		07 農林水産業の振興	事業区分	01	一般	0	6	0	1	0	3	0	3	0	0	2		
施策		12 生産を支える基盤の整備充実		☐ 国の制度による義務的事業			☐ 施設等維持管理事業			☐ 県の制度による義務的事業			☐ 補助金交付事業			☐ 市の制度による義務的事業	☒ その他の事業	
				☐ 義務化されている協議会等の負担金														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)		法令根拠	市農業振興事業補助金交付要綱														
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・カラスの駆除対策として、山中の人目に付きにくい場所を設定して、捕獲用の檻を設置する場合に、設置費の1/2(上限20万円)を補助する。 ・補助対象団体は毎年変わる。		事業費の主な内訳 (22年度)															
			項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)									
			その他補助金		0													
																	0	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	捕獲用檻の設置。捕獲。駆除。
23年度活動予定	捕獲用檻の設置。捕獲。駆除。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
鳥の被害に悩まされている農業従事者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
農作物への被害が減少する。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
農産物の安定した生産に繋がる 《生産を支える基盤の整備充実》	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 檻の設置箇所	所
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 人	人
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 鳥の捕獲数	匹
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 生産農業所得額(山梨農林水産統計年報)	億円
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	0	0	200	200	200	200	
	事業費計 (A)			千円	0	0	200	200	200	200	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	36	36	36	36	36	36		
		人件費計 (B)	千円	161	161	143	143	143	143	0	
		(A)+(B)			千円	161	161	343	343	343	343
活動指標		ア	所	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
		イ ウ									
対象指標		ア	人	5,359.0	4,296.0	4,296.0	4,296.0	4,296.0	4,296.0		
		イ ウ									
成果指標		ア	匹	355.0	227.0	400.0	400.0	400.0	400.0		
		イ ウ									
上位成果指標		ア	億円	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0		
		イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	有害鳥獣被害のうち果樹被害の多い地区に檻を設置して被害減少を防ぐ。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	カラスの果樹被害は増加傾向にある。今後も、個体数の削減は厳しく増加するものと考えられる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	カラスの果樹被害の防止をしてもらいたいという要望がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	設置場所の変更などを行い、捕獲数が増えるなど、徐々に成果をあげている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	有害鳥獣被害防止用施設設置支援事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	-------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 この事業において被害は減少しており、施策及び意図に結びついている	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 農業は南アルプス市の基幹産業であり、鳥獣被害も大きな問題であるため、見直しの必要はない。	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 子2年ほど補助金申請者はいないが、山間地及び平坦地を問わず苦情は増えており、カラスによる農作物の被害は大きく、利用できる人のためにも、継続する必要がある。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 技能や見識を有している猟友会に依頼することで、安全かつ的確に実施できている。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 鳥獣被害の防止は農業にとって必要不可欠であるため、休廃止した場合は影響がある。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 鳥獣被害の防止は農業にとって必要不可欠である。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 檻を設置するにしても、それ相応の施設設備が必要であるため、削減余地はない。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 必要最小限の時間で対応しているため、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 農業に対する被害だけでなく、社会生活に置いても鳥の被害は生じており、受益者が偏っているということはない。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	設置場所については、人に被害が及ばないようにする必要がある、十分注意しなければならない。今後も、技術や技能を有している猟友会の主導により行うことで人間に精神的なダメージを与えないように進める必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① ② ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td>⑧</td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td>⑥</td></tr> </table>	成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					